

報道関係者各位

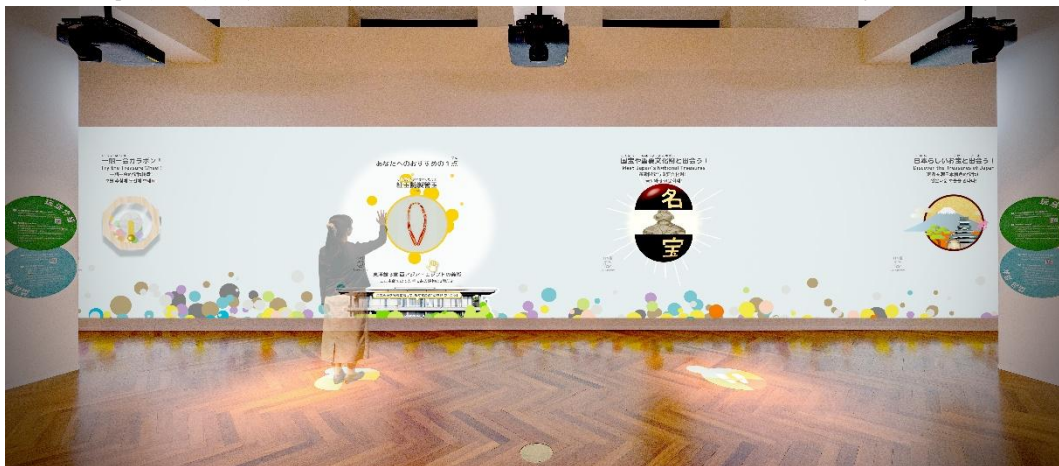
2026年6月30日
株式会社内田洋行

東京国立博物館「日本美術のとびら」がリニューアルオープン 研究員の専門的知識と約12万件の収蔵品・データベースを活用 内田洋行グループが「一期一会」の鑑賞体験を実現

株式会社内田洋行(本社:東京都中央区、代表取締役社長:大久保 昇)は、東京国立博物館(東京都台東区、以下、東博)本館において2026年6月30日(火)にリニューアルオープンした体験型常設展示「日本美術のとびら^(※1)」のコンテンツ制作を受託し、独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター(東京都台東区 以下、文化財活用センター)の事業として制作を行いました。東博が有する約12万件の収蔵品と、国立文化財機構の所蔵品・収蔵品データベース「ColBase^(※2)」、研究員のプロフェッショナルな知的資産を活用し、来館者一人ひとりに異なる文化財との出会いを創出する体験型コンテンツ「とーはくワンダーウォール(一期一会)」を構築しました。

本コンテンツは、幅14メートルの大型スクリーンとインタラクティブ技術を融合し、その日に鑑賞できる作品との出会いを起点に、来館者を展示室へと誘うものです。文化財の情報を伝えるだけでなく、来館者の体験へとつなぐことで、日本を代表する博物館ならではの新しい鑑賞体験を育んでいきます。

※1「日本美術のとびら」は、東京国立博物館と文化財活用センターが共同で運営する体験型常設展示です。



常設展示「日本美術のとびら」内に設置された「とーはくワンダーウォール」(幅14mの大型映像コンテンツ)

※2 ColBase:国立文化財機構の東京・京都・奈良・九州の4つの国立博物館と東京・奈良の2つの文化財研究所の所蔵品、および皇居三の丸尚蔵館の収蔵品の貴重な文化財を横断的に検索できる統合検索システム。文化財活用センターが運営し、誰もがオンラインで気軽に作品を閲覧し、その魅力を活用できる。

文化財との出会いを設計する— 鑑賞体験から構想した展示プロジェクト

東博には、質の高い文化財と、それらを研究する専門家の知見が蓄積されています。一方で、来館者にとっては膨大な展示や情報の中から、自分ならではの興味や発見につながる作品と出会うことが容易ではありません。

そこで本プロジェクトでは、内田洋行グループと文化財活用センターが、東博が来館者に届けたい鑑賞体験そのものの設計から取り組みました。まず「文化財との出会い」をテーマに、「どのように、実際に展示されている文化財と出会ってもらうか」「どのように展示室への期待感を高めるか」「どのような体験が来館者の記憶に残るか」といったコンセプトを設定しました。それらを起点に、映像制作、インタラクティブコンテンツ開発、音楽制作、データベース連携までを内田洋行グループが担当しました。文化財を鑑賞する前段階から期待感を高め、展示室での体験をより豊かなものへとつなげています。

東博の研究者と協創した「一期一会」の体験設計

東博には、日本やアジアの絵画、考古、彫刻、刀剣、染織、書跡など多様な分野の研究者が50名以上在籍し、日々文化財の調査・研究に取り組んでいます。本プロジェクトでは、企画の初期段階から研究者との対話を重ね、それぞれの専門知識を来館者体験へと反映することを目指しました。

たとえば、特別映像に登場する「古今和歌集(元永本)」の表現では、研究者から「金や銀がきらめく料紙の美しさを映像でも感じてほしい」という要望が寄せられました。制作チームは作品の質感や光の反射を丁寧に検証し、美しいきらめきを印象付ける演出を追求しました。文化財が本来持つ魅力を最もよく知る研究者の視点を活かし、鑑賞者の感動につながる表現を目指し、細部までこだわりながら制作しています。

また、体験型コンテンツでは、専門家ならではの視点を来館者に届けるため、「研究者の推しと出会う！」というコーナーを企画しました。国宝や重要文化財に指定されたものだけでなく、研究者だからこそ注目する技法や歴史的背景などの見どころをもつ文化財を来館者に紹介しています。

「ColBase」の文化財データの活用と「今日の出会い」へ変えるデジタル基盤

東博では、年間を通じて展示替えが行われており、実際に博物館で鑑賞できる作品は日々変化しています。約12万件の収蔵品情報をもとに、東博の展示スケジュールや、国立文化財機構の所蔵品・収蔵品検索システム「ColBase」などと連携する仕組みが新コンテンツの軸となっています。これにより、その日に実際に鑑賞できる約3,000件の展示作品情報をリアルタイムに反映しながら、多様な切り口によるコンテンツ生成を実現しました。

膨大な文化財データを単なる検索対象として扱うのではなく、「今日、この場所で出会える作品」として再編集することで、来館者の興味や行動に寄り添った鑑賞体験につなげます。東博が長年蓄積してきた知の資産とデジタル技術を組み合わせることで、文化財との新しい出会いの形を提案しています。

150年の歴史と名品をめぐる特別映像作品(ショートムービー)

東博に來訪して“最初に出会う展示”として、博物館全体やこの後の展示室で待つ作品たちの魅力を伝える約2分間の特別映像です。映像は幅14メートルの大型スクリーンに映し出され、1872年の湯島聖堂博覧会から、2022年の創立150周年までの歴史を軸に、「松林図屏風」や「古今和歌集(元永本)」、「遮光器土偶」など、東博を代表する名品が数多く登場します。この映像を通して、日本美術とアジア・世界の美術作品との深いつながりや、東博コレクションの多彩さを感じることができます。さらに、法隆寺宝物館や黒田記念館などの展示館も横断的に紹介しており、東博構内をめぐる楽しさや、国や時代、ジャンルの違う作品に新しく出会うワクワク感も実感できる構成になっています。※この特別映像はインタラクティブコンテンツの合間に、15分ごとに上映されます。



王朝のきらめきが、動き出す「古今和歌集(元永本)」

◆スペシャルムービーに登場する主な作品はこちらから確認できます

https://cpcp.nich.go.jp/modules/r_free_page/index.php?id=141

体験型インタラクティブコンテンツの6つのテーマ

スクリーンの前に立ち、来館者自身が操作することで「今日出会うおすすめの一点」が提案される体験型デジタルコンテンツです。ここで提示される文化財は、“その日必ず見られる名品”約 3,000 件のなかから抽出したもの。東博の Web 情報や所蔵品データベース「ColBase」の作品情報と連動しながらリアルタイムに選ばれ、表示されます。

研究員が選んだ「推し」の名品を紹介するコーナーや、ガラポンを回して、その人だけの名品を提示するコーナーなど、切り口は 6 種類。そのうち 4 種類がランダムに表示されます(※コンテンツ詳細は下記参照)。作品と一緒に展示館および展示コーナーも表示されるので、実物の文化財にも迷わずアクセスすることができます。また、日本語・英語・中国語・韓国語の 4 か国語対応になっており、国内外の多くの来館者が楽しめます。スクリーン上の 6 つのコンテンツはスペシャルムービーの上映後ごとに切り替わります。



スクリーンに設置されたモーションセンサーが身体の動きを読み取ることでコンテンツが展開。小さなお子さまも車いすのお客さまも体験することができます。



①研究員の推しと出会う！
東博の研究員が選んだ「推しの名品」が表示されます



②一期一会ガラポン！
その日、その時の運。くじ引きのようにガラポンを回して、「見るべき一点」と出会います



③東博をめぐるってお宝と出会う！
散策がてら出会う、少し離れた展示館にある名品を提案します



④国宝や重要文化財と出会う！
特に国宝・重要文化財のなかから一点をピックアップ



⑤日本らしいお宝と出会う！
サムライ、古典芸能、きもの…。「日本」と聞いてイメージされる展示作品と出会えます



⑥博物館で世界と出会う！
日本美術・アジアの美術・世界の美術 3つのテーマから1つを選んで、作品を紹介

■開発を担当した研究員のおすすめポイント：

切り口やテーマは自分で選びつつ、何の作品が出てくるかはその時々のお楽しみ。「自分で選ぶ楽しさ」と「偶然の出会い」を両立させたコンテンツです。東博 Web や国立文化財機構所蔵品統合検索システム [ColBase](#) と連携する仕組みにより、約 12 万件の中から今日展示に出ている作品だけを抽出することが実現しました。

(文化財活用センター 藤田千織氏)

映像やインタラクティブコンテンツに加え、空間全体として心地よく過ごせる音響設計にも配慮することで、体験の質を高めています。オリジナル楽曲の作曲から収録までを行い、操作にあわせた効果音も付け加えたことで、国籍や世代を問わず、子どもから大人まで幅広い来館者が自然に展示へ引き込まれ、文化財との出会いを楽しめる空間を演出しています。

■音楽制作

作曲：田中 文久(たなか ふみひさ)、1st ヴァイオリン：上敷領 藍子(かみしきりょう あいこ)

2nd ヴァイオリン：古賀 智子(こが さとこ)、ヴィオラ：麻柄 明日香(まがら あすか)、チェロ：木下 通子(きのした みちこ)

文化財活用センターについて

文化財活用センター〈ぶんかつ〉は、2018年に国立文化財機構のもとに設置された、文化財活用のためのナショナルセンターです。文化財の「保存」と「活用」のバランスをとりながら、その価値を最大限に引き出し、次世代へ継承することを目的としています。「文化財を1000年先、2000年先の未来に伝えるために、すべての人びとが、考え、参加する社会をつくる」というビジョンのもと、より多くの人々が文化財の魅力に触れ、誰もが文化の継承の担い手となる社会の実現に向けて様々な活動を展開しています。

文化財活用センター



<https://cpcpc.nich.go.jp>

Instagram @cpcpc.nich
ぶんかつ【文化財活用センター】

<https://www.instagram.com/cpcpc.nich/>

X(Twitter)
@cpcpc.nich
<https://x.com/cpcpc.nich>

YouTube @cpcpc.nich
ぶんかつ【文化財活用センター】

<https://www.youtube.com/@cpcpc.nich/>

文化財を“体感”へと再構築する映像制作

企画・映像制作・音楽制作・演出は、内田洋行グループ(パワープレイス株式会社、内田洋行共創システムデザインチーム、ユビキタスライブラリー)が担当いたしました。本件に携わる制作チームは、2013年の東博「書聖おうぎし王羲之」展、2019年の東博「顔真卿がんしんけい」展における書跡の再現映像制作に加え、2025年には九州国立博物館開館20周年記念特別展「九州の国宝 きゅうはくのはたから」において、「蘭亭図巻(永楽本)らんていずかん えいらくほん」を題材とした3D映像の制作・提供を行うなど、文化財の魅力映像で再構築してきた実績を有しています。本プロジェクトにおいては、映像の完成度の高さに加え、現在の東博が発信する「新しさ」と「楽しさ」を感じさせる表現、名品との出会いや宝探しのきっかけとなる多様な切り口での紹介を組み込んだ点も高く評価されました。これまで培ってきた技術と表現力をもとに、本作では文化財の魅力を損なうことなく、「体感」できるコンテンツとして再構築することで、来館者の興味や理解を自然に引き出すことを目指しました。これらの取り組みは、まだ知られていない日本各地に眠る“宝”や地域独自の文化・自然・精神性の魅力を引き出すものです。

内田洋行グループでは、今後も博物館や図書館、教育施設における空間演出や教育コンテンツの制作を通じて、日本の宝と地域の誇りをより深く伝えるための技術的な挑戦を続けてまいります。

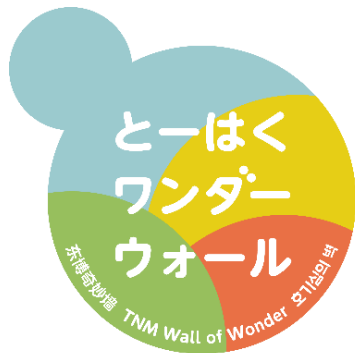
■2026年5月15日に発表したプレスリリースは[こちら](#)

内田洋行、東京国立博物館の来館者体験に新たな提案

“きょう、出会う一点”を提示するインタラクティブ空間を構築

<https://www.uchida.co.jp/company/news/press/260515.html>

展示情報



東京国立博物館 本館 1階 B室 「日本美術のとびら」

オープン日:2026年6月30日(火)

■会場:東京国立博物館 本館 1階 B室(東京都台東区上野公園 13-9)

■開館時間:9:30~17:00(入館は閉館の30分前まで)

*毎週金と土曜日および、翌月曜日が祝・休日の場合の日曜日は
夜 20:00 まで開館

*東博コレクション展に準じます

■休館日:月曜日(ただし月曜日が祝日または休日の場合は開館し、翌平日に休館)、
年末年始、その他臨時休館あり。

■観覧料:(東博コレクション展)一般 1,000 円、大学生 500 円、高校生以下無料

*東博コレクション展観覧料または開催中の特別展観覧料(観覧当日に限る)でご覧いただけます。

■ホームページ:https://cpcp.nich.go.jp/modules/r_exhibition/index.php?controller=dtl&id=53



(左から)内田洋行 代表取締役社長 大久保 昇、東京国立博物館館長 藤原 誠氏、
文化財活用センター センター長 大美 慶昌氏

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社内田洋行 広報課 佐藤 将一郎・深澤 琴絵

TEL. 03(3555)4072 FAX. 03(3555)4620

国立文化財機構 文化財活用センター

E-mail : cpcp@nich.go.jp TEL : 03-5834-2856(直通) FAX : 03-5834-2857